津南ピック～雪ビティで繋がる、広がる津南町～

愛知大学　地域政策学部　野田ゼミ（指導教員 野田 遊）
代表者：本臼 克行
発表者：伊藤 里奈　本臼 克行　江間 大樹　久野 稜祐　松田 佳子　鈴木 大介
参加者：本臼 克行　鈴木 大介　久野 稜祐　江間 大樹　山本 大貴
安永 龍平　加藤 聖也　松田 佳子　伊藤 里奈　朝倉 麻貴

梗概

現代社会でここのところ注目度が高まっている用語として「ストレス」と「非日常」がある。現代の人たちの多くは仕事、育児、学業などさまざまな場面でストレスを感じ、心機一転その状況から新たな環境を求めて遊びや旅行、イベント、スポーツなど、非日常を追求する。このストレス解消と非日常というキーワードを手がかりに政策提案を行ってみたい。

政策提案の大前提となる津南町の特徴は３つあり、それらはストレス解消と非日常を実現する重要な要素である。第一は、超高齢社会そのものである。超高齢社会は新しい取組を阻む人が少ないというメリットがある。第二は、膨大な積雪である。雪を活用できる利点である。第三は、ニュー・グリーンピアなどの利用可能な大規模施設の存在である。津南町こそが国内外から人を呼び込むことができるストレス解消と非日常の環境にある。

雪を活用した先進事例の成功要因の共通点は、参加のハードルの低さ、体を動かすこと、全国初、海外からの人の参加などであった。また、アンケートにより津南町の雪のイベントに参加する場合の動機を聞くと、ストレス解消や非日常に関わるキーワードが多くあげられ、特に若い世代で高かった。これら成功事例、津南町の現状、アンケート結果をふまえ、ストレス解消と非日常を実現する「津南ピック」を提案する。「津南ピック」は雪を利用したイベントで、オリンピックのように多くの体験プランを組み込んだものである。メインとなるイベントが本提案の鍵となる「雪闘中＝Battle　By　Snow」（BBS）である。BBS とはフジテレビのバラエティ企画として行われている「戦闘中」を参考に、雪合戦を進化させた国内初のスポーツイベントである。BBS の中には津南町の雪国文化を体験できるルールや賞品（特産品）があり、津南らしさを存分に取り入れる。

「津南ピック」の開催効果は、現代人のストレス解消、オンリーワンのイベント企画による津南町の知名度向上、若者や子育て世代の人口増加、全国や海外からの参加者（交流人口）の増加である。

第１章　問題関心

現代社会は、経済的に豊かになり、科学技術も高度に発達し、より便利で快適な生活が実現している。その一方で、仕事や勉学、住環境などあらゆる局面で現代人は多くのストレスを抱えており、時間に追われ、ゆったりと生活することができない。『厚生労働白書』（2014 年度版）によると、現代人の約 70％の人がストレスを感じていると回答している。ブラック企業で働くことやサービス残業などにより、疲労困憊するというニュースも聞かれる。株式会社マクロミルの社会人男女 1,000 人対象の調査（ストレス実態調査）によると、働く男女の 86％はストレスを感じており、原因として多かったものは、仕事内容や職場内の人間関係であった。親の生活姿が子どもにも伝染し、子どももストレスを感じやすい環境の中で生活している。子どもは、いじめや

成績不振、家庭環境などにより、ストレスを抱えている。親は、子育てや人付き合い、介護疲れなどによるストレスを抱えている。日本の現在の状況を一言で表すのに「ストレス」という用語ほど適切なものはない。

現代人の思考をGoogleトレンド（検索数の最高点を基準とした相対評価）で図を作成分析（紙面の関係上省略）したところ「ストレス」「遊び」「イベント」「やりがい」「不満」の関心が年々増加していることがわかった。仕事に「やりがい」を持っている人もいるとは思うが、日々の生活や仕事などで「やりがい」を見いだせず不満を感じ、ストレスを抱え、そのストレスを遊びやイベントといった娯楽で発散しようとする人たちも存在することが分かる。日々のストレスを発散するために、遊びや趣味などといった気分転換に大きな「やりがい」をもって臨める人たちはストレス・マネジメントもうまくできているだろう。しかし、現代人に今「やりがい」をもって夢中になれることがあると自信をもって言うことのできる人はどれだけいるだろうか。本提案は、日常で充実しきれないため、非日常を求め充実感や満足感を得ようとする点に注目する。つまり、現代人が「やりがい」の持てるものに注目し、テーマ「みんな雪のおかげ」の政策の提案をしたい。

第２章　雪を活用したイベントの先行事例

現代の人たちが抱えるストレスを解消するために、様々な娯楽が存在する。そのため、仕事が日常、娯楽は非日常として多くの人が認識している。週末の娯楽を楽しみに平日の仕事や学業をしている人たちも中にはいるだろう。娯楽にはイベント、祭り、スポーツ、映画鑑賞、読書など手軽に行うことができるものと、時間とお金をかけて行うものなど多種多様である。その中でも注目したいのが、今回のテーマの雪に関係するイベントである。雪はある特定の地域（北海道、東北、北陸、長野県、岐阜県など）でしか基本的に積もることはなく、他地域で雪が降るといっても年に数回程度である。そのため、雪があまり降らない地域にとって雪自体は珍しく、非日常的なものである。

雪に関するイベント・祭りの事例を見てみると、「さっぽろ雪まつり」や「十日町雪まつり」が有名だ。他にも、「弘前城雪灯籠まつり」や、「いわて雪まつり」など、雪に関するイベント・祭りは多い。私たちは、新聞記事やインターネットの情報から雪に関するイベント・祭りを約80件の比較的成功している事例を調査し、これらのイベント・祭りの特徴を抽出した（表1）。それらの共通項は、①子どもから大人まで遊ぶことができる「参加のハードルの低さ」、②体を動かすこと、③地元の特産品などを食べることができる「屋台や出店の存在」。④雪花火や雪灯籠、雪だるま、大型滑り台、キャンドルナイトなど、「一つの祭り・イベントで多くの体験が可能」、⑤「非日常的・非現実的」、⑥海外からの参加、⑦「十日町雪まつり」などの「全国初」などである。

注目のストレス解消には、特に②の「体を動かすこと」は欠かせない条件であり、雪と関連させればストレスを解消できる雪に関するスポーツイベントが導かれる。「昭和新山国際雪合戦」ではスポーツ雪合戦が行われ、「新庄雪まつり」では雪上運動会や雪上すもう大会を行っている。事例分析から得られた共通項をふまえたスポーツイベントとして津南町が脚光を浴びる「雪闘中（Battle By Snow: BBS)」をメインイベントとする「津南ピック」を提案したい。

表１　雪に関わる先行イベント・祭りの事例

イベント・祭り名	場所	特徴
第18回　小樽雪あかりの路	北海道	スタンプラリー、キャンドルで街並みを照らす
第40回弘前城雪灯籠まつり	青森県	雪灯籠、プロジェクションマッピング、大雪像、花火、子どもの遊び場、レクリエーション広場
十和田湖冬物語	青森県	LEDを使った光のトンネル、冬花火、伝統芸能
横手の雪まつり　かまくら	秋田県	400年以上の歴史を持つ祭り 期間中は約100基の大きなかまくらと、無数の小さなかまくらに灯がともる
第67回　さっぽろ雪まつり	北海道	大通公園に、大きさや種類の様々な雪像が立ち並ぶ 毎年、国内外から多くの人が訪れる、国内最大級のゆきまつり
第67回　十日町雪まつり	新潟県	札幌、南魚沼（新潟）に並ぶ日本3大雪まつりの一つ 雪まつり開催期間は町全体が会場になる
第49回　いわて雪まつり	岩手県	「巨大迷路」や「ラビィとホックの滑り台」、かまくらの中で食事ができる「かまくら食堂」
新庄雪まつり	山形県	雪上運動会、雪上すもう大会、キャンドルナイト、花火、巨大滑り台、スノーボードバトル
とやまスノーピアード立山山麓「雪の祭典」2016	富山県	花火、スノーラフティング、雪上フットサル、ビンゴ
第28回　昭和新山国際雪合戦	北海道	日本古来の遊び「雪合戦」にルールをつけて、冬のスポーツとして成立させた雪の祭典 全国各地の予選を勝ち抜いた精鋭142チームが、熱い戦いを繰り広げる大イベント

（出典）各種新聞記事や HP により抽出

第３章　津南町の現状

津南町の人口は、年々減少傾向である。年齢 3 区分別人口割合（2015 年）を見て、年少人口が 11%、生産年齢人口割合が 52%、老年人口割合が 37%であり超高齢社会といえる。この超高齢社会という特徴は新しい取組に対する反対者が少ないというメリットがある。関係者が限られしかも人口減少で地域の危機が近づくと、既得権益を言う人たちも限られてくる中で、新しいことをやろうという抵抗も少なくなるとわたしたちは考える。

第２の津南町の特徴は、津南町は日本有数の豪雪地帯という点である。最大積雪量は平地でも3mを超え、山間地は 4～5mになる。豪雪地帯であるがゆえに生活に不便を感じ、住民にとって雪は厄介なものと捉えられがちであるが、雪があるからこそできるイベントもあり、この点は津南ならではの利点である。

国は 2015 年において、人口減少の歯止めと東京一極集中を是正し、成長力の確保を行うため「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。津南町においても「津南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を 2016 年 3 月に策定した。総合戦略は基本目標を「雇用の創出」「新しい人の流れの創出」「結婚・子育ての支援」「安心なくらしと地域の連携」の 4 項目で作成されている。本提案のターゲットは、これらのうち「新しい人の流れの創出」である。津南町の戦略では、自然・文化などの観光資源を有効に活用・PR し、外国人観光客の誘客も視野に入れた取り組み、苗場山麗ジオパーク関連事業の充実により集客力を高めることが目標として設定されており、

「雪」を積極的に活用・PR し、既存イベントの充実と、新たなイベントに取り組むことによる観光来訪者の増加も目標とされる。「第５次津南町総合振興計画」でも「冬は観光客が極端に少なく、観光事業者は通年での安定した収入につながらない」という課題をふまえ、観光 PR の重要性が指摘され、雪国文化の体験等をテーマとしたプログラムの作成などが記載されている。少子高齢化と過疎化が非常に深刻な津南町にとって、雪を活用したイベントは、市の戦略や計画でも重要な位置づけであり、本提案は同じ方向性をもつものである。

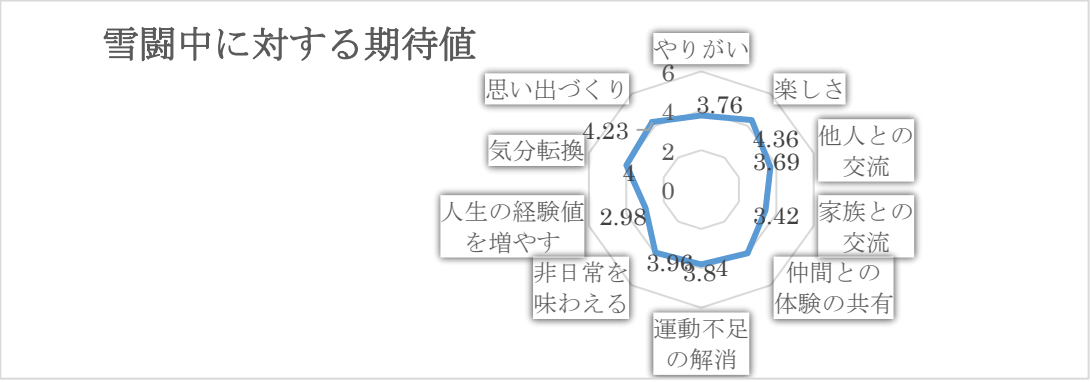
さらに第三の特徴として、ニュー・グリーンピア津南という利用可能な大規模施設の存在である。以上の新しい取組に寛容な超高齢社会、大規模な積雪、利用可能な大規模施設という条件はまさに非日常を演出し、ストレス解消を図るイベントにうってつけの場所であり、津南町が現代ストレス社会を救うと考える。

第４章　アンケート結果

一般に、雪に関するイベントに住民が参加したことがあるかどうか、「津南ピック」のメインイベント BBS（第５章で詳述）に参加する場合どのような動機をもつかを明らかにするために、愛知県と静岡県の住民にアンケートを 2016 年 8 月に実施した。回答者の属性は、20 代が 51%、10 代が 22%、性別は男性 59%、女性 41%、職業は学生が 57%、会社員が 25%であった。雪の行事、イベントの参加有無は参加したことがあるが全体の 6%で非常に少ない。こうした結果から、雪の行事やイベントがいかに非日常的であるかがわかる。

さて、雪を活用したスポーツイベント BBS に期待するものとしては、楽しさが 4.36 と一番高く、思い出作り、気分転換といったストレス解消や非日常に関わるもの、仲間との体験の共有の項目も期待が高かった。一方、家族との交流や人生の経験値を増やすといった項目は比較的数値が低かった。動機づけとして期待が高い項目ほど現代の若者が求めているものであり、期待の低い項目ほど日常生活で満たされている項目であると考えられる。BBS に期待する 10 項目の平均点は 3.82 であった。これを年代別で見ていくと、10 代と 20 代はともに 3.83 で 30 代は 4.01、40 代は 3.91 とが平均よりも高かったのに対し、50 代は 3.74 とやや平均より低く、60 代以上は 3.56 と大きく下回った。この結果より、雪のイベントに対して興味や関心を持ちやすいのは若者層や子育て世代の 30、40 代であり、彼らはストレス解消や非日常を求めている。

図１　BBS に参加する場合の動機



第５章　政策提言

第１節　津南町における新スポーツイベント開催について

現在、津南町では豪雪地帯を活かした「津南雪まつり」などのイベントがある。「津南雪まつ

り」では、スカイランタンと、国内最大規模を誇るスノーボードストレートジャンプ大会 SNOW WAVE の２大イベントを軸に展開している。しかし、津南町では雪を活かした体験型スポーツイベントは実施しておらず、鑑賞イベントが多い。現代人の思考を考えても、ストレスを抱えており、そうした人たちに魅力的で人を呼び込める方策として、スポーツやイベントが効果的である。

第２章で明らかにした先進成功事例の共通項を兼ね備えた BBS をメインイベントする「津南ピック」は、アンケートで明らかにした非日常でストレスを解消し、しかもアンケートの回答の高かった思い出作り、気分転換、仲間との体験の共有を満たすものであるのみならず、第３章で述べた戦略の一つ「新しい人の流れの創出」を特に 10～40 代（アンケートで回答が高い）において実現するものである。

第 2 節　大会プランについて

他の雪のイベントの実施例の特徴の一つは様々な体験プランであり、「津南ピック」でも、多くの体験プランを取り入れ、ストレス発散を目的とするスポーツ競技をメインとする。その際に、誰でも参加できるハードルの低さを意識する。具体的には、私たちが考えた国内初のスポーツイベントである「BBS」をメインイベントとし、雪上宝探し大会等のイベント実施に加え、夜には雪上花火など、多くの参加者、観光客が楽しむことができる大会プラン（これらすべてをまとめて「津南ピック」と呼ぶ）とする。

第 3 節　BBS の発想

BBS とは雪合戦をより多くの人が楽しめるように進化させた競技である。BBS では多くの人が参加できるのを目的としているので年代別に部門分けする。成功したイベントの要因の一つに参加のハードルの低さがある。どんなに魅力的なスポーツであっても参加のハードルが高ければ人は集まらない。まして、歴史が浅く、多くの人がこの BBS を知らないということであれば参加のハードルを低くすることは必須である。ただし、参加のハードルを低くすることは決してやりがいの低下につながるものではない。逆に部門を分けずに世代、男女混合にしてしまうと、どうしても力の差が出てしまう。そのため、部門別に分けてどの世代、男女も楽しめるようにすることが効果的である。

部門別に分けることは他人との交流にもつながる。BBS はやりがいはもちろんだが、このイベントはほかの地域の人たちが集まってくることを想定している。たとえば都道府県別チームの参加や海外チームの参加により、オリンピックのように優勝（全体、部門別）を競い、楽しむのである。

第 4 節　BBS の内容

現代人の思考、雪を利用した成功事例、津南町の現状と課題、アンケート結果を総合的に考え、降雪地帯である津南町の活性化へとつながるものは、スキーやスノーボードといったメジャーなウィンタースポーツではなく、雪ビティ（雪＋アクティビティ）である。雪ビティは雪を身近に感じる人たちはもちろん、雪を身近に感じない人たちも気軽に参加でき、幅広い年齢層を対象に楽しんでもらえるようなものである。

そこで、私たちはフジテレビが不定期にバラエティ企画として行っている「戦闘中」に目をつけた。戦闘中とは、ある「エリア」で、限られた「時間」の中、「プレイヤー」が、「ボール=バトルボール」を使って相手を撃破し、最後まで勝ち残ったプレイヤー１人だけが賞金を獲得で

きる個人戦のサバイバルゲームで、最終的に賞金を獲得できるのは、制限時間内に最後まで生き残ったプレイヤー１人のみである。戦闘中とは、プレイヤーたちが賞金を奪い合う個人戦のサバイバルゲームで、武器となるバトルボールを敵に命中させれば、ゲームから脱落させることが出来る。（フジテレビホームページより）。

私たちはこの戦闘中のルールと広大な土地と莫大な雪量を保有する津南町の特性を活かすことのできるBBSというイベントを提案する。まず、ルールについては１チーム３人の団体戦で１コート４チームで競技を行う。競技場所は津南町のニュー・グリーンピア津南のグラウンドを使用し、コートの大きさは縦、横70メートルの正方形型で自陣（雪球設置の場所）は縦、横10メートルの正方形型である。コートは一面だと進行に支障をきたす可能性もあるため、コート面数は４面で行う。陣地（白い部分）で各チームが相手チームに対し、雪球を投げチーム全員が当てられたら敗戦である。チーム戦であるため残ったチームのうち最後の一人が残るまでは競技は続けられる。最後に残った人のいるチームがその競技の勝者である。競技途中で相手の雪球に当たり競技続行不可能と審判に判断された人はコート外に設置してある牢屋で競技が終了するまで待機してもらうことになる。雪球が当たったか否かは審判か自己申告によるもののみとする。雪球の数はあらかじめ自陣に30球用意しておき、時間を見て５分ごとに各チーム10球ずつ自分たちの陣地に追加するシステムを導入する。これにより、雪球不足による勝敗の決定ができなくなるといった問題はなくなる。雪球の大きさは大会で統一するために、雪球製造機で各チームが同じ大きさのものを使用できるようにする。

部門に関しては、最初はジュニアとレディース、一般の３部門で分けて競技を行う。３部門で分けることにより、各年代の人たちが気を遣わずのびのびと競技に臨むことができる。知名度が出てくれば、都道府県別、国別部門なども検討する。参加費は大人（一般とレディース）は１チームで１万円、ジュニアは１チームで５千円とする。

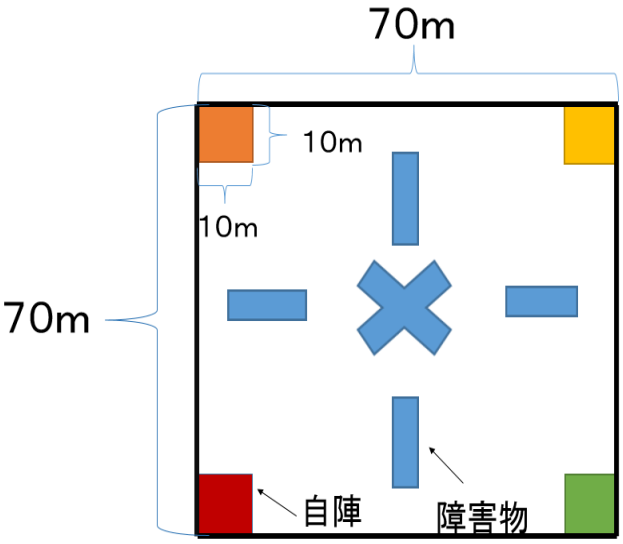
成績優秀であったチームには賞金や賞品を贈呈する。賞金や賞品を勝ち取るという目的や目標のために、高い意識や意欲でBBSに臨むことができる成績がベスト４のチームには魚沼産コシヒカリを３キロと賞金３万円、準優勝のチームには魚沼産コシヒカリ５キロと賞金５万円、優勝チームには魚沼産コシヒカリ10キロと賞金10万円を授与する。

それから、津南町自体のＰＲにもつなげて、雪国生活を少しでも体験してもらうためにも、雪国文化で使用されてきたすっぽんやミノをBBSに導入する。古くから使用されてきたものをBBSに取り入れることで雪国生活の厳しさや大変さを身をもって感じることができるとともに、津南らしさを出すこともできる。すっぽん（写真上）はわらで作られた長靴で参加者全員が初めから装着し競技に参加するものとする。ミノ（写真下）は蓑などを編んで作った雨具、防寒具で競技者に着てもらうのがより津南らしさ、雪国らしさが出るかもしれないが、競技者がミノを身にまとうと動きづらかったり、雪球が当たったか否かの判断がしづらいことが分かり、ミノはBBSの審判に装着してもらうことにする。

食べ物でも津南町をＰＲするためにBBSのスケジュールに昼休憩を設けて、その際に各地方から訪れた人たちをもてなすためにも津南の料理（へぎそば、のっぺい汁、魚沼産コシヒカリ、津南町・栄村・秋山郷名物料理コンテスト入賞作品）を振る舞う。食を通じて津南のすばらしさを知ってもらうのがコンセプトで、津南の料理を作るのは津南町地元の方々やボランティアにより行ってもらい、BBSを目当てに訪れた各地方の方々と地元の方々との交流の場としても活用する。

図２　BBS で装着するミノとすっぽん

図３　BBS の実施場所



第５節　雪上宝探し大会

津南ピックのメインイベントが BBS であるのに対し、サブイベントとして雪上宝探し大会を企画する。第２章の雪を利用した成功事例の多くは、一つの行事やイベントでたくさんのことが体験できるように計画されている。そのため、幅広い年齢層をターゲットに集客を狙うことができ、交流人口の増加へとつなぐことができると考える。また雪の新たな楽しみ方を知ってもらうこともできる。

雪上宝探し大会の参加者の対象は基本的に BBS に参加できない人たちで、子どもだけでも、親子の参加でもどちらでもよいこととする。雪の下には宝探しの景品をそのまま隠すのではなく、ボールを雪の下に隠し、そのボールの中に番号を入れておいて、景品交換所にて景品と交換する。景品はお菓子やおもちゃ、また津南町の PR につなげるためにゆるキャラの商品（つなっぺグッズ）などを用意する。

第５節　雪上花火について

サブイベントとして雪上宝探し大会のほかに雪上花火大会も企画する。花火は老若男女を問わず、幅広い年齢層で楽しむことができる。雪上で花火を打ち上げることで花火の輝きが白銀の雪により映えると考え、特に雪を身近に感じることのない人たちは雪の魅力を感じるとともに、非日常感をいっそう体感できるのではないかと考えた。

第６章　津南ピックの効果

津南ピックの開催には３つの効果がある。第一に、現代人の社会的問題解決に役立つことである。特に BBS は、ストレスや不満に悩まされている現代人が非日常を求めていることから、現代人が日常生活で満たせないものを達成できる様々な要素を兼ね備えており、やりがいや楽しさをもって参加できるという効果である。第二は、津南町に若者や子育て世代の交流人口の増加が見込めることである。アンケートの結果からも分かるように、津南ピックのうち特に BBS に対する期待は若者や子育て世代が比較的大きい。津南町は超高齢社会であり、少子化も進んでいることから、この問題の打開策にもつながる。第三は、津南町にしかない津南町のイベントが生まれることである。何においても初めてのことや新しい試みは事業としても成功しやすく、津南町がオ

ンリーワンのイベントを企画することで全国に知れ渡るきっかけにもなるのではないだろうか。津南ピックは、オリンピックのように、津南町にしかないイベントとなる。このイベントに、全国からチームをつくって参加する、場合によっては海外からの参加チームや都道府県別チームの参加が促進されれば、BBS で優勝を目指して競争しあえば、文字通り津南でオリンピックが開催されるというイベントの希少性が高まる。このような効果を狙うのがわたしたちの提案である。

参考文献

・厚生労働省『厚生労働白書』(2014 年度版) 2015 年
・津南町『津南町まち・ひと・しごと創生総合戦略』2016 年
・津南町『第５次津南町総合振興計画』2016 年
・西川昌宏・武者 賢一「まちづくり・地域づくり(第 14 回)克雪から利雪へ―雪を活かしたまちづくり―新潟県長岡市」『地理』57(6)、60-74、2012 年
・松野光範・横山勝彦「まちづくりとスポーツの関係性―「第 4 次壮瞥町まちづくり総合計画」を事例に」『同志社政策科学研究』12(2)、49-62、2011 年